

あいち病害虫情報 最新情報

平成 23 年 5 月 17 日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除グループ

ムギの病害

ムギ類赤かび病の発生は、今月前半の調査では平年に比べてやや少なく昨年よりは多い状況でした。しかし5月10日～12日の間まとまった降雨があったので、発生量が増えていると思われます。降雨前に農薬による防除を実施していない場合は速やかに防除しましょう。収穫期が近づいているので、農薬を散布する場合は使用回数や収穫前日数に留意し、飛散防止にも十分注意しましょう。

果樹の病害

落葉果樹の生育は3月の冷え込みの影響から1週間程度遅くなっています。また、5月第3半旬の連続した降雨の影響から、病気の発生が心配されます。生育ステージと天気予報に注意して、適期防除を心がけましょう。

モモせん孔細菌病は葉で発生を確認しています。枝病斑は見つけ次第切除し、適切に処分し、防除しましょう。

ナシ黒星病は、葉で発生を確認しています。連続した降雨もあったので、注意が必要です。初発を確認したら、ただちに防除しましょう。

ブドウ黒とう病は梅雨明けまで降雨のたびに二次伝染し、発病が拡大します。昨年、発生したほ場では防除しましょう。

ブドウ晩腐病は、開花直前から防除適期に入ります。開花期の重点防除時期を逃さないようにしましょう。

果樹の害虫

モモハモグリガの飛来はやや遅れていると見られ、フェロモントラップにおける誘殺数は少ない状況です。第2世代がふ化する時期は、この虫の最も重要な防除時期です。防除適期である第2世代がふ化する時期は、有効積算温度から豊橋市が6月3日で、昨年より5日遅くなると予測します。その他の産地も防除適期は昨年より遅くなると考えられるので、防除適期を外さないように防除しましょう。

ウメシロカイガラムシとクワシロカイガラムシの防除適期である第1世代ふ化幼虫の発生ピーク時期は、ウメシロカイガラムシは5月15日～20日、クワシロカイガラムシは5月18日～22日と予測します。4月下旬に計算した予測日(4月28日発表「モモのカイガラムシ

類情報第1号」参照)より防除適期が東海市、豊田市、豊橋市で1日早まりました。防除適期を逃さないようにしましょう。

フジコナカイガラムシの生育は、有効積算温度から見て昨年より2日程度遅れており、5月下旬に卵のうが発生すると予測します。ほ場で卵のうを見つけた場合、ふ化状況を確認し、防除適期であるふ化最盛期に粗皮の隙間まで薬剤がかかるように防除しましょう。

チャノコカクモンハマキのフェロモントラップにおける誘殺数は平年並みですが、第1世代成虫の発生ピーク時期が昨年より3日から5日程度遅れています。防除適期であるふ化最盛期も昨年より遅れると予測されますので、防除適期を外さないように注意しましょう。

チャノキイロアザミウマ第1世代成虫の発生ピーク時期は、東海市5月22日、名古屋・蒲郡5月23日、岡崎・豊橋5月25日、豊田・伊良湖5月26日、愛西・南知多5月27日、稲武6月16日と予想されます(5月16日時点)。防除適期は発生ピーク時ですので、防除適期を外さないようにしましょう。ブドウでは袋がけ前に防除を徹底することが重要です。

キクの病害虫

露地ギクは定植時期に入っています。定植用苗は、白さび病などの感染がないものを用いましょう。

- 農薬散布後は、防除器具のタンクやホースも洗いもれがないようにしましょう。
- 農薬は安全な場所に鍵をかけて保管しましょう。
- 防除の際は、周辺作物に飛散しないよう注意しましょう。
 - ・ 防除面積や用途に応じた防除器具、散布ノズルを選択しましょう。
 - ・ 散布するときは朝夕など風の影響が少ない時間を選びましょう。
 - ・ 風向きに注意し、他の作物の方向に散布しないように作業しましょう。
 - ・ 飛散の恐れがあるときは、近接ほ場の生産者に連絡しておきましょう。

問い合わせ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除グループ
TEL 0561-62-0085 FAX 0561-63-7820